

# ロジスティクス源流管理マニュアル（Ver.2） ～ モーダルシフト推進チェックシート・資料集～

2006年3月15日

社団法人日本ロジスティクスシステム協会  
ロジスティクス環境会議  
源流管理による環境改善委員会

## はじめに

---

企業人にとって源流管理の意味は、製品設計や製品材料の問題と捉えがちですが、環境負荷を考えるとこの分野が大きく影響することは間違いありません。

しかし、物流に携わる分野においても環境負荷を発生させており、増大もしていることから、環境負荷において物流も源流になっていると認識すべきであり、それを管理して最小限の発生に留めるように努力すべきです。物流のための資材を使用する場合もまったく同様です。後処理まで考慮に入れて採用すべきであり、まさに「源流管理」の概念が重要になってきます。

そこで、循環型社会に対応する企業の社会的責任(自らが環境負荷の源流となっている)として、また、ロジスティクスの視点から、荷主企業のロジスティクス・物流部門、物流企業として環境負荷を低減する方策を検討するために、「ロジスティクス環境会議」の中に「源流管理による環境改善委員会」が設立され、当委員会による「源流管理マニュアル」が検討されました。

2005年度の活動による検討は、2006年4月から施行される「エネルギーの使用の合理化に関する法律の一部を改正する法律(以下、改正省エネ法)」の対応が関係者の喫緊の課題となっていることから、対象とする環境負荷をCO<sub>2</sub>に限定し、なおかつ、同法の判断基準中の施策例の中でも大きく取り上げられている輸送分野の施策である「モーダルシフト」の推進に焦点を当てたマニュアルとなっております。

関係各位に実際にご活用いただき、問題点や課題について、ご意見・ご要望等をいただければ幸いです。

社団法人日本ロジスティクスシステム協会  
ロジスティクス環境会議  
源流管理による環境改善委員会  
委員長 小西 俊次

## 源流管理による環境改善委員会 2005年度活動報告

---

	開催日	時間	会場
第11回	2005年 5月27日(木)	10:00 - 12:00	J I L S会議室
第12回	2005年 6月22日(火)	15:00 - 17:00	J I L S会議室
第13回	2005年 7月27日(火)	10:00 - 12:00	J I L S会議室
第14回	2005年10月 6日(火)	13:00 - 15:00	J I L S会議室
第15回	2005年11月30日(水)	15:00 - 17:00	J I L S会議室
第16回	2005年12月22日(木)	15:00 - 17:00	J I L S会議室
第17回	2006年 1月30日(月)	13:00 - 15:00	J I L S会議室

## 源流管理による環境改善委員会 委員

No.		会社名	氏名	所属・役職
1	委員長	愛知陸運(株)	小西 俊次	代表取締役 専務
2	副委員長	早稲田大学	納富 信	大学院 理工学研究科 環境・エネルギー専攻 助教授
3	委員	流通経済大学		
4	〃	旭運輸(株)		
5	〃	(株)イトーヨーカ堂		
6	〃	ウベパレットレンタルリーシング(株)		
7	〃	大阪ガス(株)		
8	〃	川崎陸送(株)		
9	〃	グリコ乳業(株)		
10	〃	クリナップロジスティクス(株)		
11	〃	(株)合通		
12	〃	佐川急便(株)		
13	〃	サッポロビール(株)		
14	〃	三岐通運(株)		
15	〃	山九(株)		
16	〃	住電装ロジネット(株)		
17	〃	ダイハツ工業(株)		
18	〃	(株)東芝		
19	〃	トヨフジ海運(株)		
20	〃	(株)ニチレイロジグループ本社		
21	〃	日本水産(株)		
22	〃	(株)野村総合研究所		
23	〃	(株)バンダイロジパル		
24	〃	(株)ヒガシトゥエンティワン		
25	〃	(株)日立製作所		
26	〃	福岡倉庫(株)		
27	〃	(株)フジトランスコーポレーション		
28	〃	(株)ポッカロジスティクス		
29	〃	ホンダロジコム(株)		
30	〃	三井倉庫(株)		
31	〃	明治乳業(株)		

# 目 次

---

モーダルシフトチェックシートの活用方法	1
0 - 1 . 輸送の確認	2
0 - 2 . 全体フロー	3
. 計画 PLAN ~ 実施の可否までのオプション構築 ~	5
P -1 ) 背景と目的の確認、既存情報の整理	6
P -2 ) 実態データ把握	7
P -3 ) 対象輸送ルート抽出	9
P -4 ) 輸送機関の選択	10
P -5 ) その他留意事項の確認、第一次取組案策定	12
P -6 ) 輸送機関の選択	15
P -7 ) その他留意事項の詳細確認	17
P -8 ) 効果算定、最終取組案策定	19
. 実行 D0 ~ 計画から実施までのプロセス ~	21
D -1 ) 社内関連部門との調整	23
D -2 ) 顧客との調整	24
D -3 ) 輸送事業者の選定	25
D -4 ) 実施に向けた準備	26
D -5 ) モーダルシフトの実施	27
. 確認 CHECK ~ 実施後の進捗把握とフォローアップ ~	29
C -1 ) 実施状況把握	30
C -2 ) 目的達成度の検証	31
C -3 ) 問題点や課題の把握	32
C -4 ) 改善取組案の策定	33